

BOOK 本の紹介

災害を生き抜く —災害大国ニッポンの未来をつくる—

広瀬敏通著 株式会社みくに出版(2014年2月)
定価1,620円(税込) ISBN978-4-840305-36-5

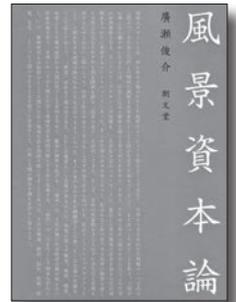
自然学校・野外活動の経験が豊富な著者が、神戸や中越、東北での震災の救援ボランティア活動の現場で感じたことや災害大国日本が取り組むべきことについて、具体的に書いている。強靱な地域づくりに欠かせないメッセージが豊富。自然の素晴らしさだけでなく恐ろしさを伝えるのも環境教育の役割なのだろうと気づかせてくれる。



風景資本論

廣瀬俊介著 株式会社朗文堂(2011年11月)
定価2,160円(税込) ISBN978-4-947613-85-1

自然は資本だ、と耳にする機会は多い。では、自然が成すものも「資本」と言えるのではないか。ランドスケープデザイナーの著者が「風景」について考察した一冊。増加する自然災害の被害の背景にも、自然と社会の繋がりを無視した画一的な開発がある。その土地のあるべき姿とは。東日本大震災を経て追記された付記にも注目。



復興の風景像 ランドスケープの再生を通じた復興支援のためのコンセプトブック

公益社団法人日本造園学会 東日本大震災復興支援調査委員会編著
株式会社マルモ出版(2012年5月)
定価1,902円(税込) ISBN978-4-944091-48-5

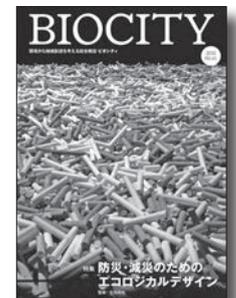
日本造園学会の東日本大震災復興支援調査委員会の活動をまとめたコンセプトブック。ランドスケープをデザインする立場から、「時の経過」とともに「空間の広がり」(個人からコミュニティ、地域へ)という視点で、復興・防災・減災をひも解いている。私たちの生活と自然の関係の中で求められるランドスケープデザインを知る手がかりに。



BIOCITY (NO.61) 防災・減災のためのエコロジカルデザイン

古田尚也監修 株式会社ブックエンド(2015年1月)
定価2,700円(税込) ISBN978-4-907083-22-9 C0040

環境から地域創造を考える総合雑誌「BIOCITY」の防災・減災特集。大規模な自然災害が相次ぐなか、自然や生態系を活かした新しい防災・減災(Eco-DRR)に注目が集まる。弊誌の寄稿者でもあるIUCN古田尚也氏(13ページ参照)の監修により、気象変動に対応する国内外の優れた事例や研究、アプローチを取り上げ、これからの防災観・減災観を紹介する。



減災(災害リスク軽減)のための 環境の手引き

国際自然保護連合(IUCN) / 生物多様性JAPAN発行(2014年3月)
生物多様性JAPANサイトよりダウンロード可
<http://www.bdnj.org/>

減災への課題を、生物多様性との関わりでどのように解析するかをまとめた手引き。生態系サービスの恩恵を前提としながら、減災(災害リスク軽減、DRR)計画に環境配慮を盛り込む方法とそのメリットを、国内外のケーススタディとともに紹介している。巻末のDRRにまつわる条約やリソース集も同分野の理解を深める一助となる。



3.11 あの時 / 3.11 あの時 stage2 / 3.11 あの時 stage3

東北環境パートナーシップオフィス発行(2012年5月、2013年5月、2014年4月) 東北環境パートナーシップオフィスサイトよりダウンロード可 <http://www.epo-tohoku.jp/>

東北大震災直後から現場の状況を経年で丹念に取材した記録三部作。2011年は岩手、宮城、福島の実況を、翌年は青森、秋田、山形に範囲を広げさまざまな支援活動取材。2013年は短期的な支援の終焉をふまえて中間支援的な活動紹介も目立つ。東北の人々の意識の変化をたどる情報源になるとともに、防災や復興を考える教材として有効。

